

平成28年度 一般会計予算 会派の主張(討論)

過去最大の予算確保を高く評価!

自由民主党市議団 蜂屋 健次

賛成

28年度は、渡部市政が柱とする第4次総合計画後期基本計画と第4次行財政改革大綱後期基本方針が始動する。今後の東村山の行く末を決める重要な年度である。

算編成としたことを高く評価するとともに、限られた予算の中で市民のために努力を怠らない職員に感謝の念を表す。

この予算をみた市民は「遅れていた都市基盤整備が進み、道路がよくなり、店舗が立ち並び、にぎわいをみせ、みどりの中で子ども達が元気に走り回り、住み慣れたまちに高齢者が安心して暮らせる」と思い描くであろう。

東村山創生元年に確かな取り組みを

公明党 駒崎 高行

賛成

28年度は、財政調整基金から約8億円を繰り入れるなど、厳しい予算編成となったが、市民要望に込められた新たな施策や将来に向けたまちづくりを着実に進める予算と評価する。

ことを強く求める。新たな施策として、8年ぶりとなるグリーンバス新規路線の実証運行開始、会派として長きに渡り要望してきた胃がんハイリスク検査の実現、街路灯・防犯街路灯のLED化、子ども相談室の設置、中学校特別教室へのエアコン設置、第2野火止児童クラブの改修を、市民の生命・暮らしを守る施策として、ゆりかご

今後、超高齢化社会による扶助費の増加や公共施設の再生など財政需要の増加が見込まれるため、民間活力の導入や業務の効率化等に取り組む

「まちの向上」を求めることは市民の権利であり、その声に応えることが市長、職員、そして我々議員の義務である。今後、地方交付税が減少し、社会保障関係経費が果てしなく増え続けることは事実である。財政の黒字基調を維持しつつ、市民の思いを叶えるために積み立ててきた基金を積極的に活用し、中・長期的な政策や喫緊の市民ニーズに応えること、市民サービスの水準を向上していくことを切に願う市長の手腕に期待し、賛成の討論とする。

「まちの向上」を求めることは市民の権利であり、その声に応えることが市長、職員、そして我々議員の義務である。今後、地方交付税が減少し、社会保障関係経費が果てしなく増え続けることは事実である。財政の黒字基調を維持しつつ、市民の思いを叶えるために積み立ててきた基金を積極的に活用し、中・長期的な政策や喫緊の市民ニーズに応えること、市民サービスの水準を向上していくことを切に願う市長の手腕に期待し、賛成の討論とする。

ゼロベースで見直すべきは・・・

日本共産党 山口 みよ

反対

2016年度予算の中で、小・中学校特別教室へのエアコン設置や富士見・美住町地域でのコミュニティバスの実証運行開始、胃がんハイリスク検査の実施等は市民の要望が実現したものと評価する。

しかし、若者の車離れや大型道路の見直しが始まっている中、市長は「基盤整備でまちの価値を上げる」と、都市計画道路3・4・5号線だけで8億円も計上している。一方、市民から要望の強い生活道路の拡幅や整備には1億8,000万円しか計上していない。

小学校給食調理の完全

誰も見捨てない東村山を一步前へ

ともに生きよう! ネットワーク 佐藤まさたか

賛成

実施計画と創生総合戦略、行革実行プログラムを基軸とし、真に必要なところへは財政調整基金で機動的に対応した予算と判断。生活困窮者自立支援事業に就労準備支援を加えることを大いに評価し、ハローワーク、障害者就業支援室とともにセーフティネットを丁寧に編み上げることに期待する。

最後に、子どもの貧困対策に緊張感を高めて踏み込むことを強く求める。不登校やいじめの渦中にある子ども一人ひとりの現状も先延ばしは許されない。福祉専門職としてのスクールソーシャルワーカーの増強を一日も早く実現してほしい。

財政破綻なのに職員給与引上げ?

草の根市民クラブ 朝木 直子

反対

当市は臨時財政対策債を借り入れないと正常な行政運営ができないほど財政力が脆弱であるにもかかわらず、財政力があり臨時財政対策債も借り入れていない東京都23区にあわせて職員給与を引き上げることが合理的理由がなく暴挙である。一方、社会保障費を徹底して抑制するよう職員に通達し、

障がい児施策は他市に遅れ、コミュニティバスの高齢者割引も導入せず、緑地保全には無策、退職した部長を再任用して部長登用を続けている。臨時財政対策債を満額借り入れし続けているに過ぎないのに、あたかも市長の手腕で財政を立て直したかのような主張を繰り返している渡部市政には強く反対する。

20・30代に選ばれる予算編成か?

民主党 かみまち弓子

賛成

生き残りをかけ、岐路に立つ東村山市の10年、20年先を見据えた予算か、市民目線で審議した。その結果、①小学校のトイレを早期に改修すること②DVシェルターの設置を検討すること③児童館職員の休暇時には臨時職員を補充すること④第2野火止児童クラブと公立保育園は民営化ありきではない

く、保護者と丁寧話し合い結論を出すこと⑤コミュニティバスの高齢者割引を検討すること⑥栄町1丁目の交差点に歩車分離信号を設置すること⑦図書館資料費を増額すること⑧久米川テニスコート借地料を適正化する等々の要望はあるが、「住みやすい・住み続けたい・選ばれる自治体」になる予算と期待する。

次世代にツケを回す予算には反対

市民自治の会 島崎 よこ子

反対

市長は、臨時財政対策債を発行可能額まで借りることを前提に財政運営を進めているが、48年度までの元利償還合計額は約304億円にも及ぶ。借金返済のために借金を減らす自転車操業自治体と言える。コミュニティバスは乗客が減少し、

り続け、28年度には収支比率が下がる見通しであり、値上げは失敗である。固定資産税等の3倍以上の借地料を払い続けている借地が4カ所もある。既得権益となっている自動販売機の取り扱いは見直さず、公平公正な市政運営とは言えない。

予算特別委員会

委員長 熊木 敏己

副委員長 村山 淳子

委員

島崎 よこ子 かみまち弓子
おくだに 浩一 朝木 直子
矢野 ほづみ 小林 美緒
小町 明夫 渡辺 英子
横尾 孝雄 佐藤 まさたか
大塚 恵美子 白石 えつ子
土方 桂 蜂屋 健次
石橋 博 石橋 光明
駒崎 高行 山口 みよ
渡辺 みのる さとう直子

